

平成29年度 研究報告

次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント
～熊大式マネジメントシステムの構築～
（1年次）



Kumamoto University Special Support School

平成30年2月

熊本大学教育学部附属特別支援学校



創造 森 挑戦 炎

熊本大学教育学部附属特別支援学校では、現行学習指導要領の公示からこれまで、子どもたちの夢や希望を実現するために授業づくりの在り方や、個や障がい特性に応じた指導内容・方法の研究に取り組んできました。また、教育的ニーズと学習指導要領に示された教育内容との関連を図りながら実践研究を行ってきました。

今年度（平成29年度）からは、次期学習指導要領を見据え、3ヵ年計画で子どもたちの学びを基盤に今後の学校教育の在り方を考え、研究実践に取り組んでいきます。

現行学習指導要領改訂から これまでの本校における研究と成果

平成21～23年度
「熊大式授業づくりシステムの開発」
教育的ニーズ実現を目指す段階的ミーティングシステム

平成23，24年度
「コミュニケーション能力を育むための指導方法についての実践研究」
個や障がい特性に応じた指導内容や指導方法

平成25年度
「『コミュニケーションの学習』の創設」
小・中・高一貫したコミュニケーション指導による能力向上

平成26，27年度
「コミュニケーション能力を育む教育課程の在り方」
パッケージの指導の必要性和重要性

平成28年度
「キャリア発達を支援する教育課程及び就労支援の充実」
卒業後を見据えた教育支援，地域社会との連携の在り方

次期学習指導要領を 見据えて

研究テーマ（平成29年度～平成31年度）

「次期学習指導要領を見据えた カリキュラム・マネジメント」 ～熊大式マネジメントシステムの構築～

熊大式マネジメントシステムの構築を目指した3つの取組

- 取組1 **カリキュラムの充実**（マネジメント体制の構築）
取組2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた**授業改善・開発**
取組3 **地域社会との連携・協働**

1年次

- ◆熊大式マネジメントシステムの構築
- ◆指導の評価による日々の授業改善
- ◆福祉・労働との連携強化

2年次

- ◆熊大式マネジメントシステムの構築
- ◆評価システム確立と評価に基づいた授業改善・開発
- ◆地域資源を活用した授業の充実

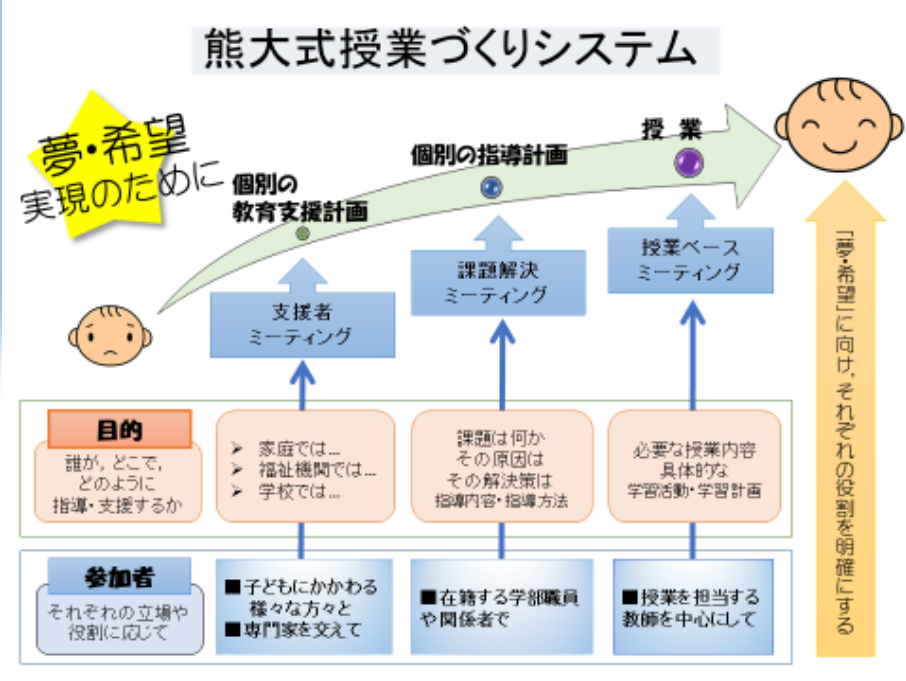
3年次

- ◆熊大式マネジメントシステムによる評価・改善の実践検証
- ◆卒業後を見据えた学びをつなぐ教育課程の編成

取組 1

カリキュラムの充実 ～マネジメント体制構築のために～

子どもの夢や希望の実現に向けた「熊大式授業づくりシステム」をもとに
学習と指導の評価を教育課程改善に生かす体制へ



※「熊大式授業づくりシステム」とは
子どもたちの夢や希望の実現のために、本人・保護者・学校・福祉・医療等の関係者が一堂に会して行う「個別の教育支援計画」作成や役割を明確にする『支援者ミーティング』、学部教員で行う「個別の指導計画」作成のための『課題解決ミーティング』、学部・授業担当者等で行う『授業ベースミーティング』の3つの段階的なミーティングシステムのこと
「システム」とは、3つの核となるミーティングにより作成された個別の教育支援計画、個別の指導計画、日々の授業がPDCAサイクルでつながることを意味する

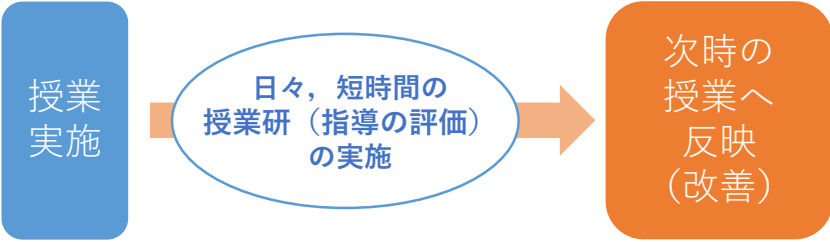
個別の指導計画及び通知表様式の変更



※様式の詳細は、
当日配付資料（学習
指導案・資料集）に
掲載

これまで指導形態毎に、個別の目標設定及び評価を行ってきました。しかし、学びを確かにつなぐためには現行の様式では不十分であると考え、各教科毎に計画及び評価する様式で検討を進めています。
学年間、学部間における指導の連続性を支えるツールとして、また、学びの履歴として、本校で研究・実証後、他の特別支援学校や小・中学校の特別支援学級において活用される様式を目指して取組を進めています。

評価の体制づくり



教育課程や単元等の評価の基となる日々の授業について評価の時間を設けることで、子どもたちの学習目標達成のために教師の指導について評価を行い、日々授業改善に取り組むことができるようにしました。

評価内容・体制の充実

LMSシートの書式変更と役割の明確化



これまで熊大式授業づくりにおいて使用していたL(long)シート【長期計画・評価】、M(middle)シート【単元等中期計画・評価（単元等）】、S(short)シート【授業計画・評価】の書式を見直し、指導内容や教科との関連が明確になるようにするとともに、評価の観点、内容の整理を行うことで、課題が明らかになるようにしました。

カリキュラム・マネジメントのためには
評価するだけでなく評価を改善に生かすことが必要

評価システムの重要性

評価の観点と改善段階の明確化
次年度は課題について、どの段階（教育課程・単元・授業）で改善を行っていくのかなど改善段階が明確にできる評価システムを目指します。

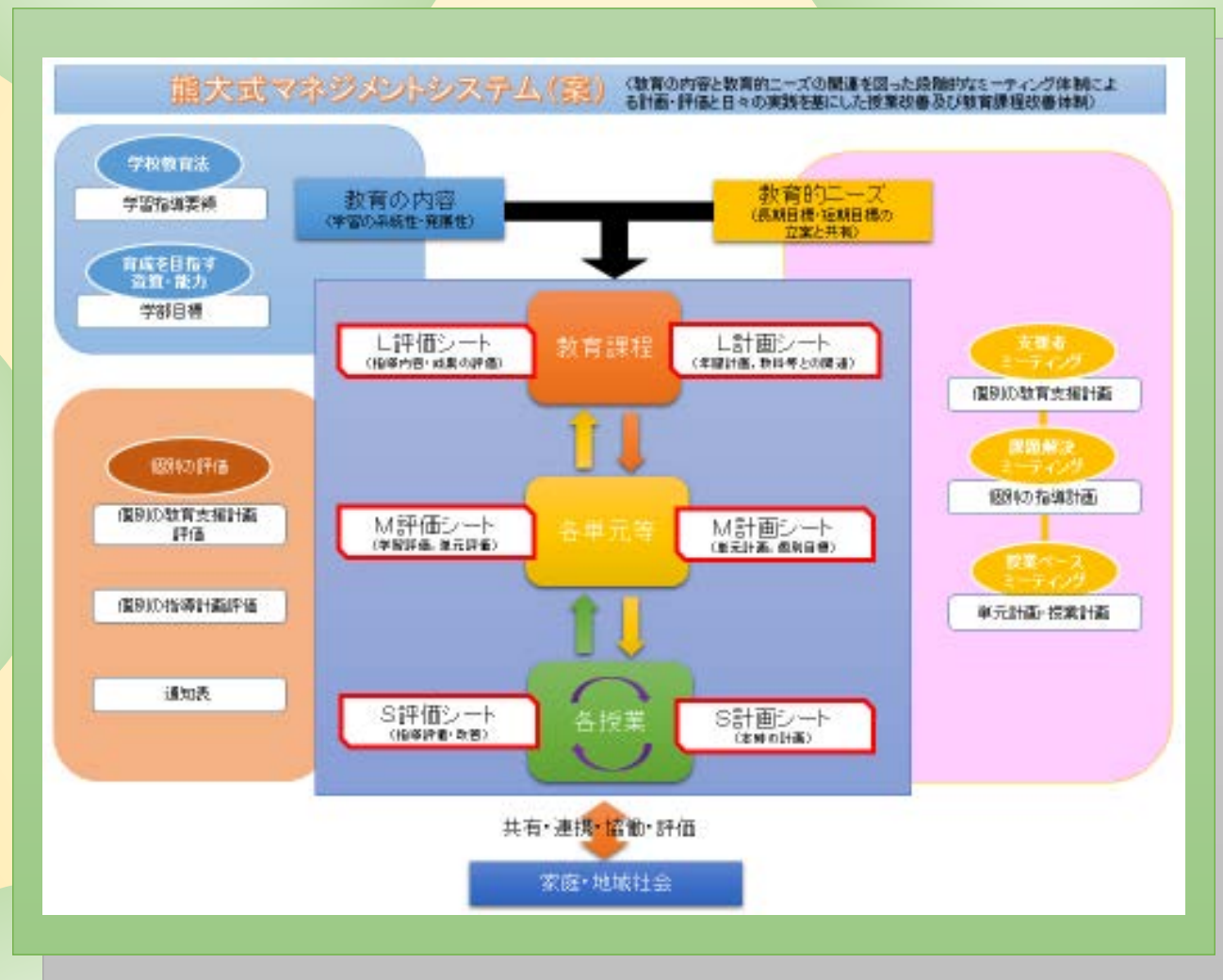
熊大式マネジメント システム構造図

学習指導要領に基づき、
教科横断的な視点により
資質・能力の育成を目指す

**段階的な
ミーティングシステム**により
子どもの夢や希望の実現を目指す

評価のつながりを明確にして
**子どもの学びを
生かす，つなぐ**

教師間で授業計画・評価を
**話し合い，思いを共有
する**



段階的な評価システムにより
改善の内容・場面を明らかにする

ツールの役割と内容を明確にし、
焦点化を図ることで
**話し合い（検討・改善）
を活性化**する

取組 2

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

主体的・対話的で深い学びとは...

○ 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか

○ 対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか

○ 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか

それぞれ独立したものではなく、
授業や単元等のまとまりの中で
相互に関連付きながら深まっていくもの

【単元構成】

- ・実態に即した題材の選定と内容や目標の明確化
- ・学習集団構成
- ・系統性（学びの繋がり）
- ・発展性（スモールステップ、課題の追加）

- ・学習内容の焦点化 わらいを明確にする
- ・教材教具の工夫 操作性、自由度、量や提示方法など
- ・学習グループの工夫 学びが活性化する構成
- ・場の工夫 十分な活動スペース
- ・教師のかかわり 個に応じた思考を促す働きかけ、個・全体の支援のバランス、校務司の役割・連携

【授業構成】

◆主体的な学びのために

学習への興味関心（体験的活動）
学習への見通し（目的意識）
学習する必然性（リアリティ）
学習の振り返り（自覚、意欲、期待）

学びの支援

主体的な学び

習得

活用

探究

深い学び
(学びのつながり)

対話的な学び

対話的な学び

対話的な学び

◆対話的な学びのために

対話の内容と対象
思考や気づきを促す教材や教師の支援

次の学びへ

主体的・対話的で深い学びの習得イメージ図



主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりの工夫点やポイントを明らかにしていきます。
今年度は、右表の教科の実践研究に取り組んできました。
詳しくは、次ページより紹介します。

小学部

国語科

生活科

体育科

中学部

数学科

職業・家庭科

保健体育科

高等部

音楽科

家庭科

保健体育科

小学部

小学部は自立的な生活の基礎づくりの段階です。友達や教師等，身近な人への関心を高め，集団生活のルールを学び，学校生活の楽しさを味わいながら，必要な生活習慣，生活技能を育むことを教育的ニーズとして捉え，学校生活全般を通して活動への見通しをもち，自主的に行動できる児童の育成を行っています。

◆小学部目標◆ 学校生活を楽しく，いろいろなことに興味をもって，元気に活動する子どもを育てる

- ・身近な人への関心を高め，集団生活でのルールを学びながらかわり合いを深める【かかわる】
- ・日常生活での基本的生活習慣を身に付け，身辺処理の技能を高める【くらす】
- ・基礎的なことばやかずに興味をもち，理解を拡げる【くらす】
- ・身近な自然や社会に関心をもったり，自分の役割を遂行したりする【はたらく】
- ・造形，運動，音楽に親しみ，表現する力，体力，技能等を高める【たのしむ】

国語科

「ことばでかくれんぼ」

単元のねらいと学習概要

「前」や「横」など位置を示す言葉を使って，児童に馴染みのある「かくれんぼ」を楽しみながら物の場所を伝え合う学習を行いました。この学習を通して，円滑な意思疎通ができるようになるため，位置と物の語句を選び考え結びつけて伝え合う力の育成を目指しました。



教室で模型を使った学習

授業づくりの工夫点

リアリティー 学んだことを生かせるように，日常生活に関連する題材や教材を取り扱います。学習の場を教室に限らず，屋外など児童の生活場面を活用しました。

操作性と見える化 カードなどの具体物を用いて，視覚的に考えやすくしたり，自分の考えや互いの意見が見て分かるようにしたりします。また，1つの教材を皆で使うことで，自分や他児の考えを見たり操作して比べたりしながら学び合えるようにしました。

思考の整理と価値付け 教師が児童の発言や行動を整理(構造化)しつつ共感・賞賛することで価値付け，児童自らが自己の考えを評価し明確にできるようにしました。

スモールステップ 児童が知っていることや経験していることを用いて授業計画を立て，前時の授業での内容を振り返り，次時の内容も簡単に扱うようにしました。

対話のコーディネート 他児にも考えが伝わるように教師が児童の発言を繰り返したり，他児に問い直したりしました。



運動場での写真を使った学習
「山の上/階段の上/空の下」



ヒントをもとに物を探す様子

生活科

「こんなときどうする ～ふくをたたもう ふくをかたづけよう～」

単元のねらいと学習概要

衣服の畳み方やそれらを仕分けて片付ける学習を通して，畳む技能に加え，整理整頓するよさに気付き，自分から丁寧に衣服を畳んで片付けたり，家庭生活において意欲的に手伝いに取り組んだりする習慣や態度の育成を目指しました。



授業づくりの工夫点

授業のストーリー

- ①【前時の振り返り】
できるようになったことの確認
- ②【課題の提示】これはどうかな？
- ③【考えてみよう】操作をしながら
- ④【考えの検証】
なるほど！できた！の実感



発表の順番

友達の考えを模倣したり参考にしたりしやすいよう，発表の順番はモデルとなる児童から行うようにしました。

それぞれの思い・考えの表出

自分自身の思いや感覚を表出しやすいよう，正誤ではなく，「にっこり」or「がっかり」などの感情の言葉を選択肢に設けます。また，言葉で伝えることができる児童には，選択した理由などを発表する機会を設けました。

伝わりやすい，理解しやすいキーワードの設定

授業のポイントや衣服の畳み方などが分かりやすいよう，手順などをキーワードにして伝えることで理解を促しました。

体育科

「高く遠くに投げよう ～鬼的当てゲーム・恐竜エサやりゲーム～」

単元のねらいと学習概要

2つのゲームを通して，上手投げ（オーバーハンドスロー）を身に付け，遠くに投げるための学習を行いました。遠くに投げるためにはどうしたらよいかという点について，自分なりに考え，工夫して投げたり，友達や教師の投げ方を見て模倣して投げたりしながら，楽しく運動に取り組む態度の育成を目指しました。

授業づくりの工夫点

教材の工夫

ボールには，転がりにくいお手玉を使用することで，投げた距離が分かりやすいようにしました。また，肩や腰を回転させて投げることができるように，「足型シート」を用意し，ボールを投げる方向に対して体が横を向いて投げるようにしました。

自ら目標を持って

授業の始めには，的に当てる目標回数やボールを投げる目標距離を自分で決める時間を設け，ゲームに挑戦するようにしました。

よりよい投げ方の思考

児童の動きをもとに教師が2つの例を提示し，試して選択できるようにしました。また，言葉で説明できる児童には，自分の投げ方について振り返り，説明する時間を設けました。

動作の模倣と言語化

友達を模倣し，自分の投げ方と比較できるように，友達のよい点を紹介するようにしました。その際，児童の気付きを教師が言葉で整理することで，投げるポイントを理解できるようにしました。

第1次「鬼的当てゲーム」



第2次「恐竜エサやりゲーム」



中学部

中学部は、小学部教育をより一層発展・拡充し、基本的な生活習慣の定着を図りながら生活経験の拡大に努め、仲間とともに協力して自信を持って行動できる生徒の育成を目指しています。生徒がチャレンジする具体的な項目として「元気なあいさつ」「時間を守る」「最後までがんばる」「みんななかよく」を設定し、日々取り組んでいます。

◆中学部目標◆ 学校生活に見通しをもって、仲間とふれあいながらたくましく生きる生徒を育てる

- ・友達や身近な社会の人々との円滑なコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を形成する【かかわる】
- ・規則正しい生活を送る中で、基本的な生活習慣の定着を図り、生活技能を高める【くらす】
- ・日常生活や社会生活に必要な言語や数量等に関心を持ち、それらの力を伸ばし高める【くらす】
- ・身近な自然や社会に対する関心や理解を深め、働くことへの関心や意欲を高める【はたらく】
- ・造形、音楽、運動への知識・技能・関心を高め、表現力や技能をより一層高める【たのしむ】

数学科

「お金の学習」

単元のねらいと学習概要

金銭に関する基礎的な知識を学ぶとともに、それらの知識を活用しながら、いろいろな支払い方を考えたり、その中から、目的や状況、見通しなどに応じて、自分の払い方を選択したりする内容に取り組み、今後の計画的な消費につながる力の育成を目指しました。



授業づくりの工夫点

授業の流れ

- ①【前時までの振り返り】
基礎的な知識の確認と定着
前時の「考えてみよう」の振り返り
- ②【本時の学習】
本時の学習内容の確認
- ③【考えてみよう】
いくつかの課題設定において、自分だったらどうするか、理由も合わせて考える
- ④【学びの深まり】
互いに自分の考えを発表し合う

基礎的な知識の定着

「金種」「等価関係」「両替」の内容を中心に、スライド教材を用いながら、毎回授業の最初に繰り返し取り組み、全員で確認していきましました。

課題設定

「考えてみよう」では、ちょうど・おつりがある・少ないお金・硬貨を減らす・見通しをもってなどのいろいろな支払い方が考えられる課題設定を行いました。

考える形態（自分で→みんなと→自分に）

「考えてみよう」では、本物の貨幣とワークシートをそれぞれに用意し、最初は自分の考えを自由にまとめ、その後、互いに発表し合いました。友達の考え方を聞いて、再度自分の考え方を振り返り、同じ、または似た部分を更に深めたり、異なる部分を比較したり、新たな視点に気付いたりできるようにしました。

職業・家庭科

「くらし『調理にチャレンジ～ゆでる・焼く～』」

単元のねらいと学習概要

インスタント飲料、ゆで卵、温野菜サラダ、お好み焼きを作るために必要な「材料」「手順」「道具」を自分たちで考え、実際に調理をしました。その展開の中で、「なぜ」「どうして」という本質的な理解を深めながら、基本的な知識・技能の習得と主体的な態度の育成をねらいました。



授業づくりの工夫点

【具体物や半具体物】 （絵カードの操作）

実物や絵カード等で課題内容を具体的に意識したり、思考や表現を操作的にできるようにしました。



【振り返りシート】

家庭でもチャレンジしたいという意欲につながるように、目標達成ができたか一つ一つ確認して自信をもてるようにしたり、家庭で実践できた時にチェックする欄を設けたりしました。



「考える」を支えるシンキングエイド

【学び合いのメソッド】

A「考えを理由や根拠で示す生徒」
B「考えを言葉や行動で示す生徒」
C「模倣して考える生徒」の3つの様子で生徒を捉え、実践する順番は、学び合いの深まるB→A→Cとしました。



保健体育科

「ポートボールをしよう」

単元のねらいと学習概要

ポートボール大会に向けて、個人やチームでの練習に取り組みました。ドリブルやパス、守りなどに動きを分けて、「どうしたらうまくいく？」のか考え、運動に取り組みました。楽しみながら体を動かすことで、互いのよさを生かして協働する習慣や態度の育成をねらいました。



授業づくりの工夫点【必然性を仕組み、生徒主体の動きを引き出す】

授業の組み立て

・準備運動・簡単なゲーム
タオル体操やドリブルおにごっこなどゲーム感覚で楽しみながら自由な動きを引き出すようにしました。

・課題の提示・思考・実践

「ボールをとられないためにはどうしたらいい？」などの課題を提示しました。思考を働かせ、考えたように体を動かしてみるようにしました。

・振り返り・称賛

自信や達成感など味わえるように「ナイスプレイ」「ナイス応援」の生徒を選び、みんなに紹介しました。

内面をゆさぶる

・興味「やってみよう！」
・思考「〇〇してみよう」
・達成感「できた！」「やった！」
・悔しさ「もっとうまくなりたい！」



動きへのアプローチ

・焦点化
鏡を用いて自分の手の動きを見たり、授業のVTRを見て振り返り、よい動きに気付くようにしました。

・動きを取り入れ実践

気付いたよい動きを、次の運動に取り入れ練習できる学習の流れにしました。



高等部

高等部では、中学部教育をより一層発展・拡充し、学校生活全般において、学校生活から社会生活への円滑な移行を意図し、生徒の卒業後の豊かな生活やよりよい社会参加を目指した教育を志向します。

◆高等部目標◆ 自分の未来に夢や希望をもち、社会参加を見据えて、主体的にチャレンジする生徒を育てる

- ・肯定的な自己理解を基本にして、自己を取り巻く様々な人々の役割やよさを尊重する態度をもち、よりよい人間関係を築く【かかわる】
- ・生活上の知識・技能・態度を実生活に生かし、社会の中でよりよく暮らす力を高める【くらす】
- ・社会参加に必要な言語、数量等の力を伸ばし、社会の中で活用する【くらす】
- ・身近な自然や社会、職業等への体験や理解を深め、自分のよさを生かして働いたり、社会参加したりする意欲を高める【はたらく】
- ・造形、音楽、運動等への知識・技能・関心を一層高め、それらを生かして余暇生活を楽しむ【たのしむ】

音楽科

「音を聴こう、音や音楽でイメージを表現しよう」

単元のねらいと学習概要

「花火」のイメージをもとに音楽を創造する活動を通して、奏法を工夫したり、音色を工夫したりして器楽の表現力の育成を目指しました。

授業づくりの工夫点

“音から音楽へ”発展的に活動を設定

「音を聴く」「音で表現する」「音楽で表現する」「演奏する」と発展的に活動を設定し、生徒同士で創作活動が行えるように互いの音を聴く時間や表現の工夫等について話し合う時間を毎時設けるようにしました。

音を聴くための状況づくり

奏法から音の響きや質感の違いが伝わりやすいようにクラベスを用いたり、視覚情報を遮断して聴く環境を整えたりしました。また、音の再現を試みる活動を通して、生徒の興味や意欲が高まるようにしました。



イメージを広げる視覚情報の活用

絵や図形、動画等を用いてイメージの広がりや共有、音楽での表現に広がりをもてるようにしました。

イメージと表現を繋ぐ図形譜の活用

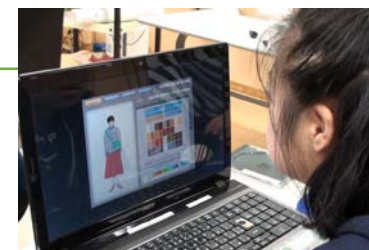
図形譜を活用し、「花火」のイメージや音や音楽による表現を共有しやすいようにしました。また、図形譜をもとにイメージが近い人や、選んだ楽器の音色が近い人同士が集まることで、お互いのイメージをより意識できるようにしました。

家庭科

「服装について考えよう！」

単元のねらいと学習概要

シミュレーションソフトを用いて、自分に似合う色やデザインについての知識を深めながら、自らの服装について振り返り、TPOに応じた衣服選択の大切さを学びました。



授業づくりの工夫点

見通しがもてる授業展開

- ①【課題の提示】
今日は何を考えるのかな？
- ②【自分でやってみる】
どうしたらいいのかな？
- ③【みんなで考えよう】
話し合いの中で、解決の糸口を見つけよう
- ④【自分を振り返る（課題解決）】
できた！こうしてみよう！やってみよう！

認め・ほめる場面の設定

アドバイザーの立場としての話し合い活動の中で、「似合うね！」「いいね！」の相互評価を積み重ね、よりよい自分の姿を追求しました。

客観性の重視

タブレット、シミュレーションソフトや写真の効果的な活用により、自分の姿を客観的に捉え「人の目を鏡として見る」意識付けができるようにしました。

楽しい!またやりたい!!

ICT機器を実際に操作して考えたり、振り返り活動を工夫したりすることで、「服を選ぶ・色を選ぶ」ことを自ら楽しみながら取り組めるようにしました。

保健 体育科

「バスケットボールをしよう」

単元のねらいと学習概要

バスケットボールの活動において、生徒の実態に応じてグループを分け（リンググループ、バスケットグループ）、チームでの話し合い活動や練習を行い、チームの課題点をゲームで実践しました。それを通して、練習したことができた喜びを味わうとともに、ゲームに積極的に取り組み、楽しむ力の育成を目指しました。



授業づくりの工夫点

振り返り時の視覚的な教材として

ゲームを行う際には、タブレットで動画を撮影し、即時に動きなどを振り返るために活用しました。その際、生徒たちが話し合ったり、考えたりした内容に対して教師からアドバイスをを行いながら、より具体的な練習やゲームでの作戦へと促しました。

グループ編成の工夫

1グループを4～5人で編成しました。チーム力向上のために、本単元中は話し合い活動の充実のため、チームのメンバーを固定しました。

話し合い活動を通した支援や活動の変更

リンググループでは、「シュートが入らない」→「シュート練習をしよう」という話し合いになったときに、シュートが入りやすいサポートエリア枠を教師が棒でさして視覚的、具体的、さらにポイントに合わせた支援をしました。バスケットボールグループでは、生徒の動きや意見から、ルールを変更して全員が楽しめるゲームになるよう支援しました。

取組 3

地域社会（福祉・労働等）との 連携・協働



「附特就職支援ネットワーク会議」について ～就労支援ネットワーク構築の取組～

1 目的

本校がモデルとなり、教育・労働・福祉等の関係機関が連携・協働した取組を実施することで、本校及び地域のキャリア教育や就労支援体制を充実させるとともに、地域のセンター的機能を発揮することを目的とする。

2 取組内容

- (1) 本校の社会に開かれた教育課程実現に向けたカリキュラム・マネジメントへの評価及び助言
- (2) 本校及び地域のキャリア教育及び就労支援に関する支援ツールの開発や研修会の開催
- (3) 地域の小・中・高等学校への進路・就労支援に関するケース検討
- (4) 教育・労働・福祉等のニーズや実情に関する情報交換及び連携・協働した取組の実施

3 開催数

年3回（6月，11月，2月）

平成29年度就職支援ネットワーク委員（8名）

- ・くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター緑（主任支援ワーカー）
- ・アス・トライ 就労移行支援事業所（代表）
- ・熊本県中小企業家同友会（副代表理事）
- ・チャレンジめいとくの里ゆめくらしワークス事業部（サービス管理責任者）
- ・社会福祉法人ライン工房（総括施設長）
- ・熊本市障がい者相談支援センターじょうなん（センター長）
- ・熊本障害者職業センター（主任障害者職業カウンセラー）
- ・社会福祉法人三気の会相談支援事業所たんぼ（熊本時習館特別支援相談員）



今年度は就職支援ネットワーク委員の方々と連携・協働して支援ツールの開発や研修会の開催等を行いました

支援ツールの開発

「くまもと5000プロジェクト」における学校プラグの開発

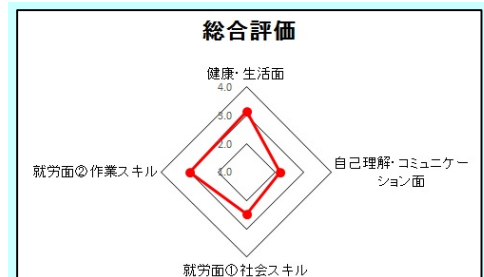
これまで就労に関わる有志で結成された「くまもと5000プロジェクト」では、障がいのある方が自分で自分の生き方を選ぶことができるように、様々な情報（求人情報，相談支援事業所，グループホーム，障がい福祉事業所等）をWEB上に掲載してきました。

今回，新たに「学校プラグ」として，熊本県内の特別支援学校の情報や，障がいのある子どもたちの進路スケジュール，高等部卒業後の就労の様子，各種支援ツールを掲載予定です。



「附特就労アセスメントシート（総合記録表・評価表）」の改善

「附特就労アセスメントシート」は，仕事ができる」「できない」を見極めるためのものではなく，生徒の**強み**を見つけ職場での業務をマッチングさせたり，**芽生え**を学校で重点的に取り組んだり，障がいの特性による課題に対し**配慮**を要請したりするなど，客観的なデータに基づいて就労支援をするために活用しています。



アセスメント内容		アセスメント領域	初回	S	E	R	2回目	3回目	備考
就労面における作業能力	巧緻性	55. 手先が器用である	学校・実習	2	●				簡単な作業であれば可能。
	正確性	56. ミスなく作業ができる	学校・実習	3					
	能率性	57. 慣れると作業スピードが上がる	学校・実習	3					
	効率性	58. 時間を見て行動することができる	学校・実習	2	●				時間を決めて活動することで、自分で次の行動を予測することができる
		59. 工夫しながら作業ができる	学校・実習	2					
	気力	60. 1日に6時間以上作業継続する気力がある	学校・実習	4	●				32℃～34℃の倉庫で立ち仕事を実際に取組み「大丈夫だった」と話されている
就労面における作業量	体力	61. 1日に6時間以上作業を継続する体力がある	学校・実習	4	●				
		62. 重たいものを持ちたり、動かしたりする体力がある	学校・実習	4					

研修会等の開催

「卒業後の働く生活を描くセミナー2017」の開催

障がいのある方の「働く」「暮らす」の支援を行う3つの社会福祉法人と本校が協働し、卒業後の「働く生活」の実際について知っていただき、子どもたちの将来がより具体的にイメージできるようになることを目的として、セミナーを開催しました。

対象は、主に障がいのある児童生徒の保護者の方々、また、特別支援教育に関わる学校の先生方として、約280名の方々に参加いただきました。

一般就労や福祉的就労など、卒業後の様々な「はたらき方」についての情報提供や質疑応答を通じた意見交換を行うことができました。

〈午前〉

講演「将来、障がいのある子どもたちが
働く・働き続けるために大切なこと」
特定非営利活動法人くらしえん・しごとえん
代表理事 鈴木 修氏

〈午後〉

- ①就労系福祉サービスの特徴と現状
- ②「就労移行支援」
- ③「就労継続支援A型」
- ④「就労継続支援B型」

※福祉事業所より事例紹介



社会福祉法人明徳会の中田氏より（セミナー実行委員長）

県内特別支援学校生徒のご家族や教員の方に多数ご参加いただきました。今回のセミナーでは、在学中には見えづらい支援学校卒業後の働く生活について、鈴木様には社会で働くために大切なことについてご講演をいただきました。また、福祉サービス事業所からは、就労系事業を利用して本人らしく自立した社会生活を実現している方の事例の発表があり、将来の生活のイメージづくりの機会になりました。

今後も教育・福祉・労働が連携して将来を描ける研修会を企画していきます。

地域支援

地域の高等学校等への就労・生活支援

就労相談窓口「就労サポートすずかけ」を開設し、校内外の相談窓口を明確にするとともに、校内のキャリア教育・就労支援や卒業後のフォローアップ体制の充実に取り組んでいます。

また、そのノウハウを地域の小中高等学校等への進路・就労支援へ活用し、センター的機能を発揮しています。

高等学校への支援例

- 就労相談や本人のアセスメント
- インターンシップ先の案内
- インターンシップの進め方(事前の情報交換やケース会の実施)
- インターンシップにおける巡回支援のサポート
- 障がい福祉サービスや支援機関の情報提供

平成29年度は高3生徒2名、高2生徒2名の就労支援を実施

「すずかけイブニングセミナー」の開催

発達障がいのある生徒の進学・就労等に関するシリーズ研修（高等学校や大学における支援、当事者会、若サポ、企業からの講演等）」として、年5回開催しています。小中高等学校、特別支援学校の教職員・保護者、福祉事業所・企業の職員等、のべ700人（平均60名）の方に御参加いただき、様々な職種や校種で情報交換を行うことができました。

回	テーマ	講師
1	高等学校における特別支援教育の体制・支援	熊本中央高等学校 特別支援教育コーディネーター 織田紗智子氏
2	大学内における特別支援の連携・支援	熊本大学学生支援室 特任助教(臨床心理士) 井上寛子氏 キャンパスソーシャルワーカー 渡邊和紀氏
3	大人になった当事者と対話して、教育・支援のあり方を見直してみよう ～発達障がい者当事者会からの発信～	障害者相談支援事業所 発達協働センターよりみちセンター長 精神保健福祉士 山田裕一氏 発達障害者当事者会!リレビットスタッフ
4	さまざまなニーズに応じた若者の就労支援	くまもと若者サポートステーション 統括コーディネーター 宮口 雅子氏
5	企業における様々な連携・支援 ～雇用する立場から～	株式会社総合ブランド 人材開発事業部 部長 森下勝也氏 課長 藤本由佳氏



本研究や研修会に関すること、各種ツールの様式や教材等はホームページでも御覧になれます

また進路・就労に関する研修依頼や就労相談等、何でもお困りのことがありましたら、本校の就労相談窓口「就労サポートすずかけ」に御連絡ください

「就労サポートすずかけ」連絡先
(本校内)

Tel : 096-342-2953

Fax : 096-342-2950

※詳しくはこちら↓

くまだい ふとく

検索

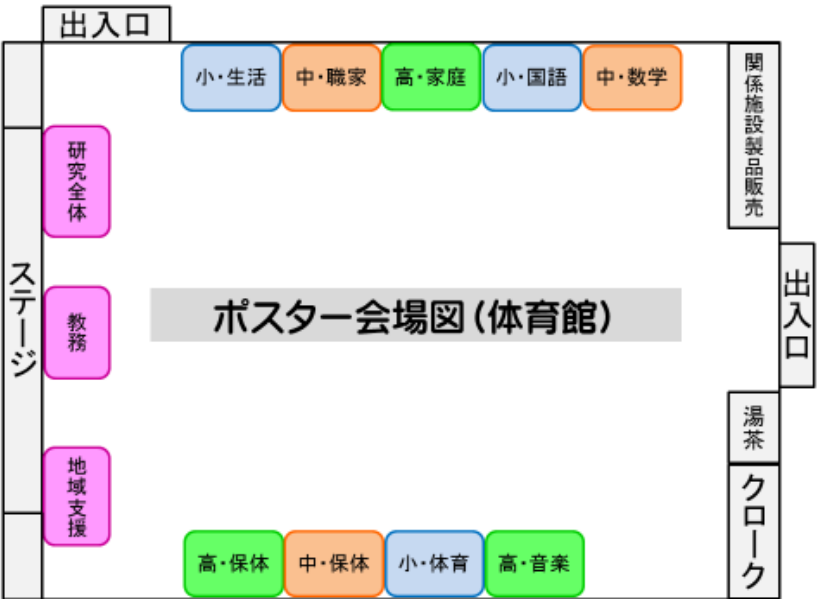


平成29年度 熊本大学教育学部附属特別支援学校
第31回 研究発表会 【開催要項】

日程		概要			
開会行事 (9:30～9:40) 体育館		◆校長挨拶	◆来賓挨拶	◆来賓・関係者紹介	◆日程説明
全体説明 (9:40～10:10) 体育館		今年度の研究の目的や方法，実践等について経過・成果を報告します。			
分科会A ポスターB・C (10:20～11:40) 各会場	分科会			ポスター	
	プレイルーム	美術室	音楽室	体育館	
	生活 (小)	数学 (中)	保健体育 (高)	分科会B・C 授業内容等	
昼食 (11:40～12:30)		体育館をご利用ください。			
分科会B ポスターA・C (12:30～13:50) 各会場	国語 (小)	保健体育 (中)	家庭 (高)	分科会A・C 授業内容等	
分科会C ポスターA・B (14:00～15:20) 各会場	体育 (小)	職業・家庭 (中)	音楽 (高)	分科会A・B 授業内容等	
講話 (15:30～16:20) 体育館		熊本大学教育学部特別支援教育学科の菊池哲平准教授， 干川隆教授から本研究に関する講話があります。			
閉会行事 (16:20～16:30)		体育館			

ポスター発表について
(会場：体育館)

ポスター発表では，各分科会の内容に加え，今年度の研究に係る内容や教育課程，地域社会との連携・協働した取組について発表します。



分科会について（会場：プレイルーム・美術室・音楽室）

各分科会では，授業づくりの経緯や工夫点などについて報告します。質疑・応答，協議後に共同研究者より教科の特質等を踏まえた助言（講話）があります。
なお，分科会の内容はポスターでも発表いたします。

分科会	教科	授業名等	発表者		共同研究者 (熊本大学教育学部)
小学部	A 生活	「こんなときどうする ～ふくをたたもう ふくをかたづけよう～」	赤崎 小田 北川	真琴 貴史 裕絵	家政教育学科 教授 八幡 彩子 社会科教育学科 准教授 竹中 伸夫
	B 国語	「ことばでかくれんぼ」	前田 原口 西岡	忠彦 さつき 奈緒子	国語教育学科 准教授 仁野平 智明
	C 体育	「高く遠くに投げよう ～鬼の的当てゲーム・ 恐竜エサやりゲーム～」	岩切 紫垣 上羽	昌大 昌希 奈津美	保健体育学科 教授 大石 康晴 保健体育学科 教授 坂下 玲子
中学部	A 数学	「お金の学習」	大村 多田 瀬田	美由紀 肇 理	数学教育学科 准教授 吉村 昇
	B 保健体育	「ポートボールをしよう」	中島 日置 田中	エミ 健児朗 晶子	保健体育学科 教授 大石 康晴 保健体育学科 教授 坂下 玲子
	C 職業・家庭	「調理にチャレンジ ～ゆでる・焼く～」	後藤 上中 丸内	匡敬 博美 勝代	家政教育学科 教授 武田 珠美
高等部	A 保健体育	「バスケットボールをしよう」	神代 福永 毎床	博晋 哲也 英樹	保健体育学科 教授 大石 康晴 保健体育学科 教授 坂下 玲子
	B 家庭	「服装について考えよう！」	辻 古里 田口	清美 王明 朱美	家政教育学科 教授 雙田 珠己
	C 音楽	「音を聴こう，音や音楽で イメージを表現しよう」	倉田 荒川	沙耶香 由希子	音楽教育学科 准教授 瀧川 淳 特別支援教育学科 准教授 藤原 志帆
ポスター	研究部	研究全体	瀬田	理	
	教務部	個別の指導計画等の様式変更	紫垣	昌希	
	特別支援部	地域社会との連携・協働	永井	崇雄	

【後 援】

熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 熊本県手をつなぐ育成会
熊本県特別支援学校長会 熊本大学教育学部同窓会